

平成26年度

第59回 長野県中学校連合教科研究会

技術・家庭科

目次

I 研究テーマ	1
II 研究の趣旨	1
III 指導者名、参加者名および参加校テーマ一覧	1
IV 研究問題と協議内容	2
第1分科会（技術分野）	2
第2分科会（家庭分野）	6
V 本年度の反省と来年度への方向	8
VI あとがき	8

I 研究テーマ

「生活に生きてはたらく力を高めるための題材、題材展開、評価のあり方」

II 研究の趣旨

- ・ 学習指導要領による技術分野・家庭分野の目標や生徒の実態を分析して、それぞれの指導内容について検討していく。題材や題材展開、評価のあり方について実践を通して研究を進めたい。
- ・ つける力を明確にし、「生活に生きてはたらく力」を生徒の具体的な姿を通して語ることでできるような研究を進めていく。
- ・ 技術・家庭科としてこれからの時代を見通して、こんな題材を生徒にぶつけてみたいという、教材観にかかわる根本的な教師の思いにもふれていきたい。

III 指導者名、参加者名および参加校テーマ一覧

指導者・司会者・記録者・世話係

	第一分科会	第二分科会
指導者	竹内 秀昌 先生 (中信教育事務所指導主事)	熊谷有紀子 先生 (東信教育事務所指導主事)
司会者	飯野 敏行 先生 (原中学校)	塩澤真千子 先生 (常盤中学校)
記録者	小島 一生 先生 (下諏訪社中学校)	中山 雅 先生 (広徳中学校)
世話係	野澤 重徳 先生 (附属松本中学校)	唐木 紫織 先生 (附属長野中学校)

第一分科会参加者 (技術分野)

地区	学校名	氏名	研究テーマ	内容
佐久	川上中	糊澤 孝樹	「材料と加工に関する技術」の授業実践～CDボックスの製作を通して～	A
上小	青木中	鷺見 学	プログラミング学習におけるペア学習のあり方	C
諏訪	岡谷南中	中牧 健治	ものづくりの学習を通して、生活を豊かにする知識、技能を身に付け、生活の中で実践していく力を伸ばす授業はどうあったらよいか	B
下伊那	緑ヶ丘中	中島信一良	生徒にわかる授業、わかることで学ぶ意欲がもてる学習指導	A
木曾	南木曾中	堀内 直人	友とかかわりながら工夫し創造する能力を高めていく指導はどうあったらよいか	B
北安	松川中	丸山 伸一	友やものと進んで関わりながら、「わかった」「できた」が実感できる技術・家庭科学習	A
上高井	常盤中	安藤 晴樹	レポートなし	
中高	豊田中	田中 裕章	友と関わりながら、学んだことを工夫して実生活に生かそうとする技術科学習のあり方	C
上水内	信濃中	林 和浩	木材加工製作における練習教材について	A
長野	附属長野中	箕田 大輔	自ら情報を評価し取捨選択する力を高める指導の在り方	C
松本	筑摩野中	北山 遼太	自らの課題を追究することを通して、生活に必要な知識・技能を習得していく指導のあり方	A
	安曇中	津金 一彦	生徒一人ひとりが、課題を持ち、支え合いながら課題解決に取り組む指導はどうあったらよいか	D
	松本附属中	野澤 重徳	課題解決力を育む技術・家庭の指導はどのようにしたらよいか	A

第二分科会参加者（家庭分野）

地区	学校名	氏名	研究テーマ	内容
塩筑	塩尻中	中 久美子	生徒一人ひとりが自らの課題を主体的に追究する技術・家庭科の指導はどうあったらよいか	B
安曇野	豊科南中	中山千代子	友との関わりを深めながら、課題を解決し、技能を身につけていくための支援のあり方	D
北安	第一中	原山こころ	レポートなし	
長野	更北中	小柳 有希	生活に必要な基礎的な知識と技能を身につけ、生活を工夫し創造する指導のあり方	B
	附属長野中	唐木 紫織	レポートなし	
松本	鎌田中	小山 祐花	仲間と学び合い、活力を育てる授業の創造	C
	開成中	小池 知子	学んだことを生活に生かそうとする態度を育てる指導のあり方	B

IV 研究問題と協議内容

【第一分科会】

研究会 I

1. 討議内容

①友との関わり合いについて

- ・製作を進める中で、失敗したくないという思いが強いように感じる。関わりの中でも個人の追究を大切にしたい。グループ活動に入る前に、自分の意見をもつことが大切だと感じる。子ども達に気づいて欲しいなということについては、ヒントカードを用意している。

②練習材の在り方について

練習材について、わざわざ買わなくても、本題材でつくる板の切り欠けを用いることができる。

③根拠がなかなか持てない生徒への支援について

- ・作業がうまくいかなかった原因をとらえるために、失敗をした時にうまくいった生徒のものを見るようにする。できない生徒にとっては、アドバイスは必要だが、どんどんやりたい生徒には必要ない場合もある。そこを仕組むことがポイントではないか。やってみた結果が根拠に繋がるのではないだろうか。

④グループ学習のグループの組み方 意図的に仕組んで組むとしたら、どのようにしたらよいか

- ・得意と苦手な生徒でのペアか、同じ位の技量の生徒か。日常の授業で考えるのは難しいのではないか。

⑤ 意欲の持たせ方について 意欲をもって追究を進めるためには

- ・より現実に近いモデルを用い、社会とのつながりをもたせる。TPPに参加した場合など、現実の話を導入に授業を行った所、反応が良かった。食べられるものだと、良くも悪くもモチベーション高い。
- ・社会や環境との関わりを考えるとこの部分も大切にしたい。川上村では、レタスや唐松の森という特色がある。森林組合や社会とも関わりながら実践を行ったが、地域のことを深く知ることにもできた。

⑥身近な機器の分解

- ・昔は自転車のラチェットの部分の分解を行った。整備して元に戻す。分解は、元に戻せるという意味だと思う。カメラを持たせて記録として残せば、再現性もあり、面白いものになるのではないか。

信州大学村松浩幸教授より

討議の柱にあった「関わり合いについて」。授業方法としてのとらえ方が強かったが、中教審では関わり合うこと自体を力としてみなす流れがある。では、どういうことが出来れば関わる能力があると言えるのか。適切なアドバイスが出来る等、そこについても研究が必要なのではないだろうか。

2. 助言者から

- ・題材に引きつけるということは大切だが、やることが明確でないと、生徒も意欲的になりにくい。この授業で何の力をつけるのか、それを明確にするためにも学習問題や学習課題が重要である。
- ・友との関わりは、必要感をもてることが大切。先生自身が、ペア学習の良さを感じないとなかなか難しい。ではペア学習の良さとは何か。いろんな観点での気づきの他に、自分が見て学ぶということもある。アドバイスする側も学んでいる。生徒にとってはいちいち先生に聞くことは難しい。生徒同士で気軽に聞けた方が、追究が深まる。ペアをどう組むのかは、状況に合わせて行うことが大切。

研究会Ⅱ

1. 討議内容

①それぞれの学校での制御

- ・生活に生きてはたらくこと 題材が直接的にはたらかなくても、つけた力が世の中に生きてくれば良いのだろうか。どういう力が生活に生きていくのか。
- ・題材はココナッツを4年ほど使っている。光や音は出るが、生活に関連してや必要感に関しては課題を感じる。問題解決学習を仕組むことはできるが、持ち帰らせるには厳しさがある。
- ・フローチャートができない生徒もいる。ミュウロボも備品であるが、専門性が高く、次の先生が使えるかどうかという難しさも感じる。

②題材づくりについて困っている点などを出し合う 題材展開に関する工夫

- ・生活に生きて働く力。計測と制御の場面では、どんな力をつければよいのだろうか。

2. 助言者から

- ・制御でどのような力をつけるのか。一つは、自動販売機の動作の仕組み等、社会にある機器の仕組みを知ることがある。また、生活の中で、「こうなったらこうしよう。ダメだったらこうしよう」と頭の中でフローチャートのように考えて試行している場合が多々あり、そのような力を付けることにもつながってくる。
- ・気をつけなければいけないのは、工夫の評価。行き当たりばったりではなく、フローチャートで考えたい。技能はフローチャートを作ればプログラムができてしまうものもある。レースで勝ったチームは「技能A」とはならない。評価は工夫と技能を明確にする必要がある。プログラムの授業を教室で行う等、パソコンにとらわれず大胆にやっていく必要がある。
- ・特にプログラム教材は、生徒が家に持ち帰って困るものもある。金額的に負担も大きくなる。前任の先生が残してくれた備品も、すぐに使わないと決めるのではなく、自分で教材研究をして使ってみるということも大切なことである。
- ・生物育成は、人が手を加えると、作物の生育が変化していることを生徒がわかるということがポイント。先生自身の楽しそうな姿を見せ、先生自身が楽しむことも生徒の意欲を高めることに有効である。

研究会Ⅲ

1. 討議内容

①外部から講師を招いての指導について

- ・地域の人材育成のために、ボランティア的に入ってもらったこともあったが、謝礼も必要だった。事前に組合を通して何度か打ち合わせをした。

②明らかに強度が足りていないが、それが工夫だと言い張る生徒。工夫とはなんだろうか。

- ・本棚の良さを考えると、コンパクトにまとめていくという良さがある。本棚の良さを考えさせていか

なければならないのではないかと。また、強度は明らかに低い。そこから見ても良いのではないかと。

- ・ 諏訪地区の研究集会、発砲スチロールで同じサイズの模型を作るという方法が紹介された。すると、強度の不足も、生徒が気づくのではないかと。

2. 助言者から

- ・ 設計において大切なのは、使用目的、使用条件。本を入れて使うという条件を考えると、強度が低いものは評価が下がるであろう。作業が簡単というのは、一概に悪いとは言えない。自分の技能に合わせて等説明させることが必要。また、構想、設計させた段階で実現可能かどうか、指導を入れるのは私たち教師の仕事だ。
- ・ プロの技は違う。だが、それだけではどうやってやればよいのかわからなければ意欲は高まらない。生徒はより良くなりたいという意識はある。ポイントを整理した授業を行いたい。
- ・ 生徒の目は授業づくりという意味で肥えてきている。川上中の授業改善の姿に学びたい。生徒指導で忙しがっていて、授業をしっかりとやらないとさらに生徒指導に追われてしまう可能性がある。生徒が好きになる技術の授業を目指し授業づくりをしっかりとやっていただきたい。

【第2分科会】

<討議1> B 食生活と自立

- ・ 自分の生活をよりよいものにしていこうという意識を持たせ続けるための題材展開の工夫
- ・ 創意工夫につながる題材と展開
- ・ 友との関わりを通して活動や学習を深める学習展開

1 レポートの発表と協議

(1) 「学んだことを生活に生かそうとする態度を育てる指導のあり方ーMy ピザランチー」

(開成中学校 小池知子先生)

①自分に必要な摂取量を理解するための工夫

- ・ 1日分の食品群別摂取量の目安が分かるようにシールを貼っていく。
- ・ 1食分の摂取量の目安を食品群別に写真に撮って、各班に配る。ひと目で分かるので、資料として大変活用できる。

(2) 「生活に必要な基礎的な知識と技能を身につけ、生活を工夫し創造する力を育てる指導の在り方ー思いが詰まったお弁当を作ろうー」(更北中学校 小柳有希先生)

① 創意工夫につながる題材展開の工夫

- ・ 栄養の学習について、お弁当の学習の中で題材が展開され、最終目的ができています。
- ・ お弁当に入れるということでハンバーグのサイズも工夫されていて考えられていた。

②友との関わりを通して活動や学習を深めるための学習

- ・ 学習カードが大変工夫されていて、見て味の評価がとらえやすいだけでなく、数字で評価をつけてあげることができる点が良い。
- ・ 3つ星がどうしても欲しくなるので意欲的に取り組める。

(3) 「調理におけるペア学習ー野菜のいろいろな切り方ー」(塩尻中学校 中久美子先生)

①ペア学習について

- ・ 相手への評価の観点が曖昧になってしまうので、自分がどこをペアの人に観てもらいたいのかというポイントを押さえておくことが大切。何となく良いと評価するのではなく、(評価の見方がはっきりと分かるように)実物投影機で写すのも良い。

- ・きゅうりの厚さ5mmは何を良いとするか。また、ペアで何を観させたら良いかの決めだしが難しい。評価の観点とどうなっていれば良いのかを明確にして、学習カードにある評価欄をレーダーチャートにして目標を設定するのもよいのではないか。

2 指導者の先生方からのご指導

(1) 福田典子先生より

①栄養の学習について（開成中）

食品の分類を6群できっちりやるのは大変なことであり、教科書の分類方法も一例にすぎず、絶対的なものではないので緩やかにとらえて分類も楽にしても良い。質と量を一気にというのは難しいので、まずは質、それから量と分けて指導しても良いのではないかと思う。量は年齢、運動量でも変わってくる。量に対して大切なことは、調理する前と後で見た目の体積はダイナミックに変化すること。（例えばわかめやはんぺんなど。）動画を使ったりして、量の変化を知らせるのもよい。手ばかりはとても良い。〇gというより、最初は手ばかりでざっくり言って自分にとって適切な見た目の概量をイメージさせることも大切。

②調理実習で生徒相互に伝え合う（評価し助言し合う）学習活動について（更北中）

8つの観点は分かりやすいが観点の数がやや多いので、5つくらいに精選したらどうか。伝え合うというのは大変良い活動。生徒が自立していないと友人に良いアドバイスができないので、事前にしっかり個人を教育する。グルーピングは、活動の鍵を握る部分であり、学級経営にもつながり、これまで話さなかった人が話せるきっかけにもなる。調理実習などの活動を通して仲間づくりができるのは他教科に家庭科のすばらしさを使えていけるところでもあると思う。

③包丁で野菜を切る学習活動について（塩尻中）

形から入るのはよい。切るということに興味を持たせる。切るというのは、調理実習につながる本質的な技術で、衛生的に食せることが肝心。アーティスティックに切るってこんなにすごいんだというところから、職人のような技能へスモールステップを踏むと良いのではないか。左ききの生徒がクラスには5%程度いる。左ききの生徒は、包丁を扱う際見ているところ（見え方など）が違うので彼らにも満足がいく声かけやフォローが必要である。一見右ききに観察されるが、実は箸やハサミを幼少期矯正されている隠れ左ききも多い、就学前の教育では左ききの子どもへの指導者の理解がある。

(2) 熊谷有紀子先生より

①献立の学習について（開成中）

献立の学習には、教えたことはたくさんあるが、生徒の意識との差があるのが現状。知識があっても生活に生かせない。数合わせ終わってしまっただけで、食べる活動と結びつかないということが課題。献立にシールを使っているという学校が増えてきた。概量を把握するための食材カードや、シールの大きさを換えることで、どれだけ摂取すべきかが実感できる。また、掲示物、準備に手間をかけてあり先生方の参考になった。

献立の学習でシールを使用する際心配なことは、数合わせの学習になってしまわないか。シールが実現可能な食品でできるようにしていくことも大切。先生方の工夫で数合わせにならないようにしていくこと。提示する食品もある程度食材を絞っても良いのではないか。

朝食を見直す授業で、食パンに食材をのせたり挟んだりしようという実践もある。ごはんでもでき、応用できる。他県の実践で、1食分の学習を1日分に組み合わせていったという例もある。

②お弁当の調理学習について（更北中）

お弁当で1食分作ってみる、というのは献立の学習で有効。手順、段取り、材料の組み合わせなど

献立をたてる学習で1品作るだけではなく、1食分作ってみるにはよいと思う。ただ、これに何時間もかけられない、という場合は、主菜、副菜、汁物を調理しておいたものと組み合わせ、1食分の調理をやってみるなど、工夫ができると思う。野菜、魚、肉の調理から組み合わせて1食分作るという展開もおもしろい。

かかわりを生み出す工夫について。共通の課題の中で、その子がかかわってもらって良かったと思える場面で取り入れていくこと。家庭科でのかかわりは、その子の課題解決に向けてのかかわりになっているかが大切。

ただし、オリジナルの調理をする前に、まず基礎基本が定着していること。入れるものが違うと火加減や焼く時間が変わることもある。既習事項を生かして調理していく姿が望まれる。例えば、基本のハンバーグでこういうことを知っているから、火加減をこう変える。ふたをして蒸す時間を長くすれば、中まで火が通るだろう。など、基礎基本が定着した上での応用、活用があるべきである。

③基礎的な学習の定着について（塩尻中）

基礎基本の定着は段階的にやっていくのが良い。実態に合わせて素材を変えていく。例えば包丁に手を添える大切さを学ぶとき、きゅうりはよいが、キャベツは手を添えなくても切れてしまう。ゆでたらかさが減ることを学ばせるときは、ほうれん草は良いが、ブロッコリーでは分かりにくい。といったように、何を学ばせるか、何に気づかせるかによって素材を変えていく必要がある。

確認してほしいことは、包丁の扱いは小学校でも扱っている。中学校で学び直しをしていると、授業時数が足りなくなってしまう。ボタン付けも小学校の学習。小学校、中学校で何を学ばなければいけないかを、学習指導要領でもう1度見直しておくが良い。

<討議2>C 衣生活・住生活と自立

- ・友と関わりながら考えを深めていくための学習展開
- ・生徒が自ら考え、動ける授業を作るための工夫

1 レポートの発表と協議

(1)「仲間と学び合い、活用力を育てる授業の創造」(鎌田中学校 小山祐花先生)

- ・ファイルカバーづくりを通して基礎縫いと衣生活の全てを学ぶようにした。アレンジで工夫した。

①基礎縫いでは何を押さえたら良いのか

- ・ボタン付けやスナップは時間がかかるが、どうしてこう縫うのかという必要性を考えさせることができる。
- ・スカートのホックがとれてしまうことの方が多いので、有用性がある。
- ・ビデオ教材や、縫い目を拡大して示すために発泡スチロールの板を利用すると良い。

(2)「20年後の自分の家族の間取りを考える」(大町第一中学校 原山こころ先生)

- ・楽しみながら作る、20年後の自分の家族の間取りを取り上げてみた。
- ・観点を3つに絞って色分けをして書き込むようにしたところ、アドバイス、改善点で既習内容に着目できるようになった。
- ・クリアファイルに入れて、上から書き込むと見やすい。ペア学習で、お互いに欠けているところを見ながら改善でき、興味関心が高まった。

(3)「備えて点検 家族のための非常持ち出し袋」(附属松本中学校 本木善子先生)

- ・家族と一緒に考えていく題材。これからも点検して使えるようにしていく。
- ・本時ではポケットつけの工夫を考えさせた。

①目的に応じた縫い方を考える

- ・重さに耐えるように丈夫に。二度縫い、返し縫い、ひもつけ、四角（+×+）さらに加えて縫う、など。

②評価については必要なものリストが生徒によって違うが、たいていは懐中電灯かペットボトルなので、それぞれに応じて評価をする。

2 指導者の先生方からのご指導

(1) 熊谷有紀子先生より

①衣生活・住生活と自立の題材と展開について

題材の選定については、「今年は何作ろう」から始まるのではなく、子どもにどんな力をつけるのか、何をねらいにしなければいけないかを考えていくと良い。製作を兼ねながら学んでいく、または基礎基本を押さえてから製作に結びつけいく、などの展開を考えていく。

大町第一中の実践は、住生活の学習の間取りの学習については、「なぜ」を大切にされた点が良い。赤ペンを使う工夫も良い。間取りについては、安全に住まう問題と家族の問題と分けて考え、題材展開で工夫しても良い。子どもの着目点から共通の課題を焦点化し、「今日は安全について考えてみよう」「今日は家族のあり方を考えてみよう」などとしてもよい。

附属松本中の実践は、題材との出会いの大切さを感じた。作りたい、考えてみたいと思う題材であり、家族と一緒に見直すという展開も良い。

②評価について

- ・主眼とねらいは「～を通して」が学習課題、「～できる、分かる」が評価と考えると分かりやすい。
- ・評価はまず、4観点のうち本時はどれを評価するのかを明確にし、主眼、学習課題、評価が通ったものに。内容がCとD、BとDのように2つにまたがっている題材では、本時はどちらの内容で評価するのかをはっきりさせておく。
- ・Bの姿はどのような姿なのか。Aの姿、Cの子どもへの手だては何かを持っていること。
- ・Aの姿はB + α と考える。例えば食の学習では、「今日は〇〇について分かりました」がB評価ならば、そこに、環境への配慮や家族を想起した姿が記述されていたらAにするなど。
- ・4観点がきちんと評価できるよう、バランス良く履修すること。
- ・工夫し創造する力。自分なりに根拠を持って工夫している姿が工夫し創造する力と評価できる。そのためには学習の足跡が分かるワークシートの工夫が必要。何でそうなったのか、どうしてそこに行き着いているのかという学習の過程、友達に教えてもらって変わった、家族に教えてもらって変わったなどの姿があるとよい。

(2) 福田典子先生より

①布を使った製作実習について（鎌田中）

「布を用いた物の製作」と「日常着の手入れにおける補修」の関係について、縫製の基本をまず考えてほしい。紙はのりですなぐ、紙に折り紙を貼るというのと絡めて考えると、布につなげるには糸ですなぐ、針で縫う。縫製というのは、布と布をつなげる、布と何かをつけるということ。または、糸で飾りをつけることもある。飾りをつけるにも針を使うと便利。接着と縫製。接着ではできないこともできる。縫製は便利な技術ということに子どもたちが気づけば、どのような展開にしても良いのではないか。その中の1つに繕いがあるし、ぬいぐるみ作りなどの製作がある。安全で能率的に作業ができる、美しく強くできる、という基本さえ押さえていればその他は自由に発想して展開して良いのではないか。

②間取りを考える住学習について（大町第一中）

住生活では掃除のところの活用、収納などに関わって学んでいくと良いのではないか。平面図に特化しすぎてしまう面もあるので、立体的に扱って良いと思う。奥行きについて扱うことも大切。視線の高さ、奥行きに視点を向けていくと指導の展開の可能性もある。

③非常持ち出し袋につけるポケットの工夫について（附属松本中）

生徒にポケットの型紙をイメージさせるために、ペットボトルなどに直接、紙等を当ててみて必要な形や大きさを考える指導方法について検討した。どのような手立てをしたらよいかと本木先生と唐木先生と一緒に教材研究して考えてきた。今回は素材として、書き込めて折りがつけられるという性質を重視して、マス目入りの厚紙を選定し、このような授業になった。計って、ゆとりを入れて、縫いしろをとる。教科書には明記されていないが、これができると何にでも応用できる基礎的な場面なのでこのステップを大切にしたい。

<討議3> D 消費と環境について：友と関わり合いながら学ぶ消費者教育

1 レポートの発表と協議

(1) 「友との関わりを深めながら、課題を解決し、技能を身につけていくための支援のあり方」（豊科南中学校 中山千代子先生）

- ・悪質商法ゲームのすごろくの紹介。悪質商法の内容や解決策などを学べる。
- ・クラス替えをした直後の2年生の最初の授業で、グループが仲良くなるように使っている。

2 指導者の先生方からのご指導

(1) 福田典子先生より

Dはまず、契約の重さが押さえられるかどうか。解約と契約。ワンクリック契約が中学では多い。生徒はお小遣いの金額、買い物する品物や金額もさまざま。どこを教材にしていくかが難しい。例えば、1週間分のレシートをとっておいて分類する活動。短期的・長期的な予算計画をして執行していくことの大切さに気づかせるなどもできる。

小学生ではジュースを飲み比べてみようという活動で同じ中身で、パッケージを変えて、どれが一番おいしいかと問いかける。子どもにパッケージデザインに依存していることに気づかせる、など。また、判断力を弱らせる、良心をくすぐる、といった売り手の気持ちを理解し、いろいろな手法があることを知ることが大切である。いかに思慮深く契約するかという態度が育つと良い。

いかにうまく契約・解約するかについては公民で教わっていることもあるので社会科の学習内容も知っておくこと。（他に家庭科の学習内容は保健、理科、美術等でも関連する部分がある。）

(2) 熊谷有紀子先生より

中学生につける力は、未然防止の力。豊科南中の実践は2学年の最初で扱うというのが工夫されている。クーリングオフなどは社会科で扱っている内容だが、家庭分野では家庭と結びつけて行なうことが大切。また、最新情報を得る努力が必要。生徒に最新情報を伝えられるようになりたい。

<討議4> A 家族・家庭と子どもの成長について：保育実習の計画と評価

1 各校の実践を発表し合う（情報交換）

2 指導者の先生方からのご指導

(1) 熊谷有紀子先生より

幼児のおやつ作りはAの内容に入っていないこと、おもちゃ作りは技能の評価ではないことに注意

してほしい。幼稚園や保育園と交流での評価は、幼児と関わったかどうかではない。例えば、1回目の訪問で観察したことを踏まえて2回目にかかわり方の工夫ができたかが評価になる。また、関わりを通して学んだことがまとめられているかどうかという点を観ることも大切。幼児との交流は教科として位置付けられている活動であるので、ぜひ受け入れてもらうようにしてほしい。

(2) 福田典子先生のご指導

基本は人間理解、異年齢理解ということを書いていけばブレない。生徒の心に社会的弱者への思いや自助、共助意識、支えていくという意識が持てていくとよい。自分の成長については支えられる自分から支える自分へと変身していく大切な時期であるということが気づければ良い。自分史は他教科や他の学習活動でも生徒はよく書いているので、焦点（目的）を絞って、家庭科にぐっと寄せていくことが必要。交流学习については受け入れる側も負担が大きいので、生徒が直接訪問し交流しなければ得られない学習内容精選してほしい。中学生ができる役に立つ作業や奉仕活動（トイレ掃除、落ち葉はきなど園に役立つ作業や奉仕活動）を幼稚園等と相談し普段からやっておくと良いと思う。

V 本年度の反省と来年度の方向

1 本年度の反省

項 目	内 容
○本年度の研究テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちのやりたい、実践してみたいという気持ちが高まり、生活につながっていく題材について考えることにつながっていたと思います。 ・実践へつながる。分かりやすい。 ・生徒の意欲を引き出す上で不可欠であり、これからも追究していくべきテーマであると思います。 ・技術科の目標にも関わって、生徒の意欲にもつながってよい。 ・このテーマで追究することで、普段あまり見ることのない題材にも出会うことができ、よかったです。
○研究の主な内容と研究の成果について	<ul style="list-style-type: none"> ・「題材」を通してつけた力が『生きてはたらく』ために、どのような展開をしていく必要があるのか、もっと研究をしていきたいです。 ・様々な実践やその話し合いができよかった。アイデアを持ち帰り、すぐ参考になる研究が多かった。学校に帰って実践していきたい。 ・一校一人配置の本教科会にとって、参考になりました。 ・自らの課題をもたせる題材展開の工夫が参考になった。 ・友とのかかわりをもたせることが、生きてはたらく力を付ける手だてとなることを知れた。 ・生徒にとってよい時間を、と考えると、本来付けるべき力を見失う可能性もある。
○研究の方法や経過について (含レポートの書き方)	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの提出が多くてよかった。 ・少人数が幸いして、気軽に質問ができたり情報交換ができたりしてよかった。ざっくばらんに話ができよかった。
○研究会当日の運営について	<ul style="list-style-type: none"> ・全員の実践などレポート持参形式で、参加者の実践も評価していただけるので、大変よい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート形式に幅があってよいと思います。 ・板書の様子を写真で提出してくれた学校があり、分かりやすくよかった。レポートにぜひ含めてほしい。
○研究集録等の Web ページ掲載について	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に前年度のレポートを見ることができるとレポートを書きやすいかと思えます。 ・HP、メールでのやり取りは、コスト、保存等、様々な面でメリットがありよいと思います。 ・人数等、HP に載るのが遅かったので、早めをお願いしたい。 ・分科会から来た情報と、ホームページで公開された情報、教科で相違があり戸惑った。
○本年度運営全般について	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡をいただけたりとても丁寧に対応していただきました。

2 来年度に向けて

○来年度の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度と同様でよいと思います。
○来年度の研究の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の方向性を見習って、研究を進めて生きたい。 ・子どもとつくる授業づくり。授業改善に向けて、各校の実践が紹介できる方向がよい。 ・あまり堅苦しくなく話ができ、情報交換ができるとよいと思いました。
○来年度の研究の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・公開した授業など、全県の情報が各校の先生方と広がられる機会になるとよい。
○その他、改善したい点	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートを事前に読めると、考えをもって臨めて意見が言いやすいと思いました。 ・開会式を簡略にし、開始時間をもう少し遅らせてほしい。 ・体験できる時間もあるとよいと思います。(レポートについて討議していると時間が取れないですが) ・年間計画を持ち寄るようにしたい。

VI あとがき

朝夕の寒さが一層厳しくなる中、県下各地からお集まりいただいた先生方の熱心な発表と討議により、大きな成果をあげて長野県中学校連合教科研究会を終えることができました。

終日にわたる研究会において、熱心にかつ丁寧にご指導いただきました県教育委員会指導主事の竹内秀昌先生、熊谷有紀子先生に心から感謝申し上げます。また、綿密な司会計画を立て、討議を進めていただいた司会の飯野敏行先生、塩澤真千子先生、当日の記録及び研究集録の執筆にご尽力いただいた記録者の小島一生先生、中山雅先生に深く感謝申し上げます。

さらに、日々の貴重な実践を携え、研究会を深めて頂きましたご参会の先生方にも心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

委員長 唐木 紫織
副委員長 本木 善子